

【No. 1】 工事監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 施工計画書を検討し、助言する業務
2. 見積り徴収事務への協力
3. 必要に応じて主任技術者または監理技術者の選任
4. 施工者選定についての助言

答. 3

---

【No. 2】 施工管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 工事全体の施工計画では品質管理を優先する
2. 図面を正確に読み取り理解し、各工事間の調整・打合せをする
3. 施工者の責任において設計図書・請負契約書に基づき、設計図書のと通りの目的物を顧客に引き渡しをする
4. 設計図書、仕様書の確認をし、疑問点は設計者、工事監理者と文書で質疑し、応答内容を確認する

答. 1

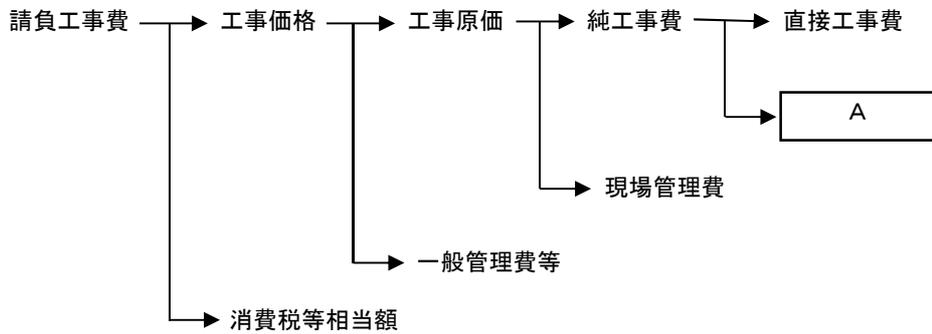
---

【No. 3】 積算・見積りに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 所要数量とは、図面に寸法の記載がないもので、計画または推定した施工寸法による数量をいう
2. 概算見積りとして、部分別に床・壁・天井毎の複合単価によって工事金額を算出する方法がある
3. 建築数量積算基準では、数量は原則として設計数量をいう
4. 部分別見積りとは、複合単価または合成単価で記載する場合が多くエレメント方式ともいわれている

答. 1

【No. 4】 工事費の構成に関する下図において、A 部分に入る最も適当なものはどれか。



1. 共通費
2. 直接仮設費
3. 運搬費
4. 共通仮設費

答. 4

【No. 5】 工事契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 請負契約は、発注者と請負者が各々の対等な立場における合意に基づいて、公正な契約を締結し、信義に従って誠実に履行する
2. オープンブック方式とは、支払金額とその対価の公正さを明らかにするため、施工者が発注者にコスト情報を開示する方式で、コストオン方式とも呼ばれている
3. リバースオークションとは、買い手が売り手を選定するオークションで、内装工事における業者選定等の手法としても活用されている
4. CM方式は、ピュアCM方式とCMアットリスク方式に大別される

答. 2

【No. 6】 工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 解体前に照明器具はずしや給排水管、電気配線等を確認後、解体作業を行う
2. 共通仮設の現場調査・準備において、施工現場の状況を事前に調査し、必要に応じて写真撮影・現況図を作成し記録することが重要である
3. 仮設工事は施工を的確に行うための準備作業として、不可欠な要素であるが、安全対策は費用に応じたものとする
4. 解体の規模や内容により周囲の養生方法、仮設の方法、解体の方法、作業時間の確認、第三者や近隣への策を行う

答. 3

---

【No. 7】 タイルの工法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 壁接着張り …………… 石こうボード下地+接着剤+壁タイル
2. モザイクタイル張り …………… 下地モルタル+張付けモルタル+台紙張りモザイクタイル
3. 床タイル圧着張り …………… 床下地モルタル+張付けモルタル+床タイル
4. 壁タイル圧着張り …………… 下地モルタル+空練敷きモルタル+壁タイル

答. 4

---

【No. 8】 左官工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 厨房床の仕上げモルタル塗りを木ごて押さえとした
2. セメントモルタル塗りの塗り厚は、剥離の恐れがあるため、床を除き 25mm 以下とする
3. せっこうプラスター塗りは厨房や地下など多湿で通気不良の場所は避ける
4. セメントモルタル塗りは内外装の壁、タイル張り下地、床等のモルタル仕上げ等に使用する

答. 1

---

【No.9】 塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. クリヤラッカー塗装は、木製家具・什器等に適し光沢が自由であるが、耐溶剤性はあまりよくないため注意が必要である
2. 油性調合ペイントは耐水性があるが、耐アルカリ性に欠けるためコンクリート面やモルタル仕上げに適している
3. ポリウレタン塗装は、耐水性があり、仕上げも美しいため、木製家具の仕上げに用いられる
4. メラミン樹脂焼付け塗装は金物什器やサッシュなどに用いられ、その仕上げの美しさを保つために工場の窯にて行い、現場施工は行わない

答. 2

---

【No.10】 設備工事に関する次の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. 電気設備工事 …………… 避雷設備
2. 衛生設備工事 …………… 空冷ヒートポンプ
3. 給排水設備工事 …………… 給湯設備
4. 空気調和設備工事 …………… ファンコイルユニット

答. 2

---

【No.11】 金属に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

1. アルミニウムの比重は鉄の 1/2 と軽量であり、加工性にすぐれている
2. 黄銅は銅とすずの合金であり、内外装板金加工などに用いられる
3. ステンレス鋼は、鉄にクロムやニッケルなど耐食性を高める元素を多量添加する方法で製造される
4. ほうろう鉄板は、薄鋼板に亜鉛メッキしたものである

答. 3

【No.12】 機能・性能と材料に関する次の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. 断熱 …………… 硬質ウレタンフォーム
2. 延焼の恐れのある部分の開口部 …………… 熱線反射板ガラス
3. ヒートアイランド対策 …………… 保水性舗装
4. 耐火被覆 …………… ケイ酸カルシウム板

答. 2

---

【No.13】 遮音・吸音に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 遮音性能は面密度に左右される
2. 内部損失の大きい材料ほど遮音性能は高い
3. 吸音材には、多孔質材料等があり、厚さや密度などにより性能が変わる
4. 木毛セメント板のような面密度の大きいものは遮音効果が良くない

答. 4

---

【No.14】 建材に関する次の用語の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. A L C …………… 高温高圧蒸気養生された軽量気泡コンクリート
2. F R P …………… 繊維強化プラスチック
3. G B - F …………… 強化石膏ボード
4. C F T …………… 直交集成材

答. 4

---

【No.15】 材料の防火性能に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 防炎処理は、カーテン、どん帳、じゅうたんなどに火がつくと急激に燃え上がることを防止する目的で、建築基準法の内装制限に規定される
2. 準不燃材料とは、加熱開始後 20 分間は燃焼したり変形したりしない、また避難上有害なガスや煙が発生しない材料である
3. 木毛セメント板は不燃材料である
4. 建築基準法上、不燃材料は準不燃材料の一種である

答. 4